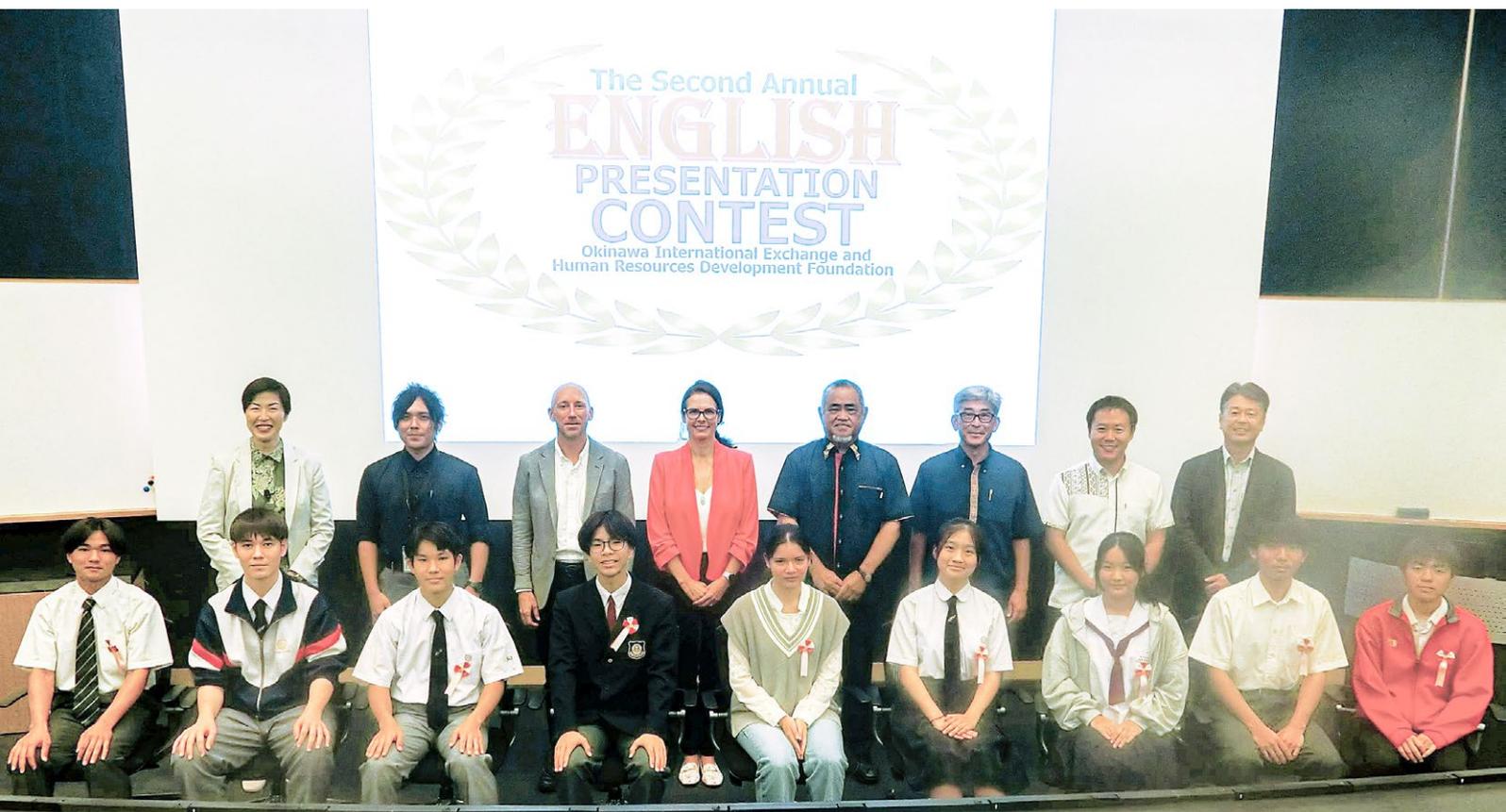


ダイバーシティを尊重する地域づくりを目指して

いちやり場通信

December 2023
No.89



The Second Annual English Presentation Contest を開催しました!

去る10月28日(土)に沖縄科学技術大学院大学(恩納村谷茶1919番地1)において“THE SECOND ANNUAL ENGLISH PRESENTATION CONTEST”を開催しました。今回は中学生や高校生9名が登壇し、「未来のDXサービスの提案」や「ダイバーシティ社会の

実現」、「ユニークなネットリテラシー教育の提言」など、普段の生活や体験を通して感じることなどを発表するレベルの高いコンテストとなりました。

審査員長を務めた沖縄科学技術大学院大学のYOUNG副学長から、「母国語以外の言語で、人前で



公益財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団

Okinawa International Exchange & Human Resources Development Foundation (OIHF)

〒901-2221 沖縄県宜野湾市伊佐4-2-16

HP : <https://kokusai.oihf.or.jp>

TEL : 098-942-9215 FAX : 098-942-9220

FB : <https://www.facebook.com/oihf60>

プレゼンテーションをするだけでなく、Q&Aセッションにおいて審査員の質問に答えるということが、いかにチャレンジングなものであるか。カナダ出身の私でさえ、公用語のひとつであるフランス語で同様のことをすると考えると、本日、みなさんのチャレンジがとてもHARD & TOUGHであったと容易に想像できます。参加者一人一人がそれを乗り越えて発表することがで

きたことは今後の自信にしてほしい。そして、勉強を続けて次回もチャレンジしてほしい」との審査講評が述べられました。

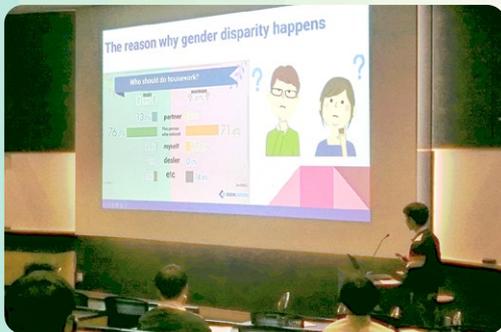
OIHFでは今後も本コンテストを定期的実施することで、英語でコミュニケーションを図ることができるグローバル人材の育成と批判的思考力の涵養に寄与して参ります。

THE RESULT OF THE SECOND ANNUAL ENGLISH PRESENTATION CONTEST

第2回 英語プレゼンテーションコンテスト 結果

<p>BEST PERFORMANCE AWARD 最優秀賞</p> <p>SESHIRU JONSON ジョンソン 聖知琉</p> <p>OKINAWA SHOGAKU JUNIOR HIGH SCHOOL 沖縄尚学高等学校・附属中学校</p> 	<p>EXCELLENT PERFORMANCE AWARD 優秀賞</p> <p>SIMON ANZO 安蔵 志紋</p> <p>UNIVERSITY OF THE RYUKYUS AFFILIATED JUNIOR HIGH SCHOOL 琉球大学教育学部附属中学校</p> 
<p>SUPERIOR PERFORMANCE AWARD 優良賞</p> <p>QIQI FAN ファン チーチー</p> <p>OKINAWA SHOGAKU JUNIOR HIGH SCHOOL 沖縄尚学高等学校・附属中学校</p> 	<p>JUDGES' SPECIAL AWARD 審査員特別賞</p> <p>RAITO TSUHAKO 津波古 羅斗</p> <p>OKINAWA SHOGAKU JUNIOR HIGH SCHOOL 沖縄尚学高等学校・附属中学校</p> 

プレゼンテーションの様子



審査員長による審査講評



会場の様子



審査の様子

第2回

日本語学習サポーター育成ウェビナー

開催日時 2023年10月7日(土)9:30-11:30

講師 沖縄国際大学
非常勤教員 川野 さちよ 氏

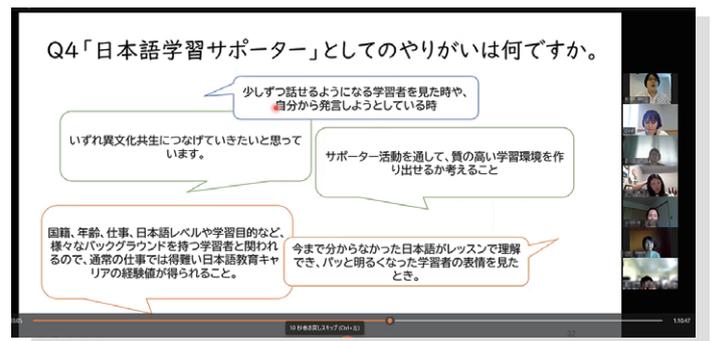
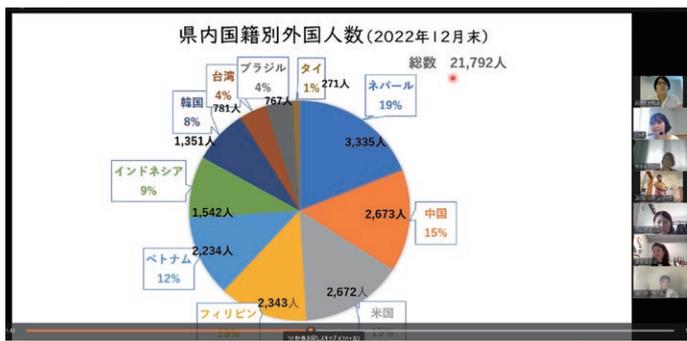
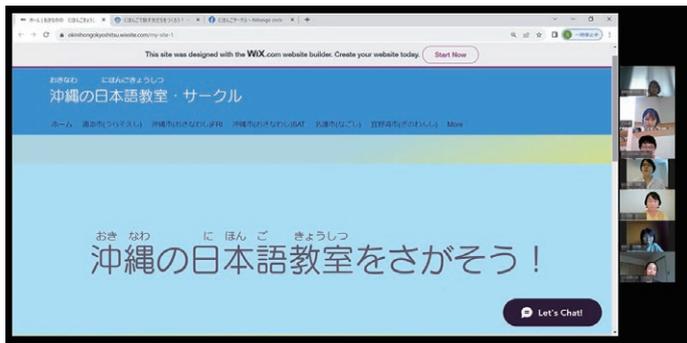
去る10月7日に「第2回日本語学習サポーター育成ウェビナー」を開催しました。沖縄国際大学の川野先生を講師としてお招きし、地域日本語教育の実践に視点をあて講演しました。

実践面に関しては、川野先生が普段日本語サークルを運営する上で意識していることについての話を聴きました。川野先生が運営しているサークルは対話交流型の場で、参加者同士の交流を深めるために主にグループワーク中心に行っているということでした。『傾聴する他者がいることで、安心できる第三の居場所となる』とこれまでの実践を通して感じて、

日本語を学ぶ場だけではなく、在住外国人の安心できる居場所となることを意識してサークルの環境づくりを行っているそうです。

また県内の実例として、各地の日本語教室・サークルの紹介がありました。同じ県内でも、活動内容や特色は日本語教室・サークルによって様々です。外国人参加者と日本人参加者の対話交流型で活動しているところもあれば、日本人参加者が教師となりテキストを使用して日本語を教えるところもあります。ウェビナー参加者にとっても県内各地の日本語教室・サークルの話は新鮮だったらしく、熱心に話を聞いていました。「県内の同じような環境での取り組みの話は大変勉強になった。自分が所属している日本語教室に話を持ち帰って、参考にしていきたい」「ボランティアで参加したいけど、どこで活動できるのかわからなかった。活動できる場が分かったのが良かった」「外国籍の子どもが参加できる日本語教室・サークルを探していたので、この情報は助かる」と参加者から声が挙がっていました。

OIHFでは今後もこのようなウェビナーを開催していきたいと思います。「第3回日本語学習サポーター育成ウェビナー」も開催予定ですので、ぜひご参加ください。



避難所運営訓練を実施しました



南城市が実施する総合防災訓練に合わせて、去る10月22日(日)に避難所運営訓練を実施しました。OIHF国際交流課職員により災害時多言語支援センターが開設され、シナリオ付与班により流されてくる様々なシナリオに対応する傍ら、避難所に見立てた同施設内で災害時外国人支援サポーターによる避難者対応や情報の多言語発信などが行われました。

毎年行われる本訓練の課題となりますが、参加者一人一人が、ただ単に周囲の指示を待つのではなく想像力を働かせて混乱状態にある中率先して、避難してくる地域住民にどのような対応を行うことができるのかを考えながら行動することが重要となります。「できたこと」や「改善が必要なこと」などを基に、災害時におけるよりよい避難所運営の在り方を今後反映できればと思います。



多言語支援センター運営の様子



避難所受付開設

参加者の感想

避難所運営がどういうことなのかイメージできてよかったです。これまで避難者としての訓練しか参加したことがなかったので、運営といっても何をしたいか全くわかりませんでした。訓練に参加してみて、災害時はおそらくとんでもなくカオスなんだろうと心の準備ができました。避難者はお客さんじゃないので支援者はその要望に100%答えなくてもよいことや、避難者同士でも支援しあえることがあるということなど、頭ではわかっているけど行動が伴わないことも多々ありました。ネットに繋がらない環境でも外国人から聞いておかなければならない情報がわかるように、もう一度、オンライン避難者登録フォームの内容に目を通しておこうと思いました。参加してみてわかることがたくさんあって、改めて訓練の大切さに気がきました。



事前の準備は確かに重要ではありますが、発災から継続的に必要支援や要支援者のタイプが変わることを考えると「避難訓練」と一括りにすること自体が難しいと感じました。ですが、実際には「そんなこと言ってもらえない」状況になることも体験済みですので、いかに機転を効かせ、臨機応変に動けるかが重要になると改めて感じました。

最初に役割分けをしましたが、実際には状況に合わせて役割交代をする必要が出てきたりと思います。柔軟に対応する必要性を共通認識として持つことと、対応する言語は事前には知ることができないので、日本語しかできなくても知恵を絞って自分たちで対応する必要があることなどを先に伝える必要があると思いました。

外国人支援スキルアップセミナーを開催しました!



去る10月14日(土)に沖縄県市町村自治会館において、「外国人支援スキルアップセミナー」を開催しました。セミナーでは、法テラス本部国際室長 富田さとこ氏と地域国際化推進アドバイザー 村松紀子氏を招聘し、お二方がこれまでに携わってきた外国人相談事例についてお話いただきました。

富田氏からは、「相談に乗る場合は、相談者の背景、あなたの背景、相談者が立つステージを見極めながら、生半可な知識や価値観の押し付けをすることなく「餅は餅屋」という意識を持って、むしろ餅屋を使いこなすための基礎知識を習得するのが大事である」こと、また村松氏からは「相談を受ける側としての自身のケアが必要である」ことを中心にワークを交えながらわかりやすく解説いただきました。



セミナーの様子



村松氏による講演



富田氏による講演

▼▼▼ 参加者の感想 ▼▼▼

今回の講座を通して支援者や相談相手として、相手との距離をどのようにとるべきかどのように対応すべきか等学べました。特に、現在在留している外国人については、置かれている環境が様々で身寄りがある者もいれば、身寄りがない者、伝えたいことがうまく伝えられない者など人それぞれのため、対応に苦戦することも多々ありますが、自分自身の役割は何か、相手が今一番求めていることは何かを聞き出し、その問題に対して適切な機関を案内することが、とても重要だと感じました。外国人の方が安心して適法に日本で生活を送れるように、今後も関係機関との連携を密にすることや、講座等がある際は積極的に参加しようと思います。

外国人支援を行っている方々の生の声を聞くことができ、大変参考になった。相談を受ける際、相談者の立場に立ち、どの問題を最優先に対応すべきか、問題解決につながる専門部署が他があれば、どこになるのかなど、常に意識しながら対応したいと思う。

富田様の講義は外国人だけではなく、どの相手にも当てはまる話だったと思います。特に相手のいるステージを把握できることで寄り添いでき、良い人間関係を築けると思うようになりました。村松様の講義では今まで疑問に思ったことの原因に気付かされました。特に昔に出稼ぎとして来日した日系人の現状がより理解できたと同時に日系人の高齢化が今後より深刻な問題になりそうなことと日系人のコミュニティについて色々理解できました。多くの学び得たことに感謝です。

冒頭OIHfから「外国人支援なんてない」というお話から始まったが、まさに私が日頃から悶々と抱えていた疑問であり、一気にセミナー受講へのワクワク感と楽しみが沸き上がってきました。セミナーでは日頃、相談員として対応する中(日本人・外国人問わず)での見返す部分や新たな発見などもあり、今後の業務改善や取り組んでいけそうな部分も多かったです。また、これからの支援は支援者側・外国人の相手側の言葉の壁のみでなく、心の壁を取り除いていく体制作りが必要であるという内容に気づきがありました。

外国人支援スキルアップセミナー

「避難所での炊き出し について考える」

日本赤十字社沖縄県支部の協力の下、去る11月11日(土)に避難所での炊き出しについて考えるセミナーを開催しました。冒頭、過去の災害を紐解きながら「避難所生活」のポイントや注意点を確認するとともに、ポリ袋を使ってできる防災飯について概観しました。

セミナーの後半、実際にポリ袋を活用した湯煎による炊飯や、参加者があらかじめ準備してきたポリ袋に入れてきた主菜を湯煎する演習を行いました。



講義の様子



生米湯煎準備



湯煎演習



湯煎後の実食

耐熱用のビニールでお米が炊けたのが感動しました。現代は炊飯器以外にお米を炊く体験は少ないですし、災害時は食べ物も非常に重要な役割を果たすと思うので、実際に体験して災害時に役立つ知識だと感じました。湯煎で、美味しくご飯も炊けていましたが、他の参加者は部分的に少し固かったり仕上がりにムラがあったように思いましたが、食べられない、と言うことはありませんでした。

想像していたような、1つの大釜での炊き出しではなく、ビニール袋で湯煎する方法というところに新鮮さがありました。

災害時に具体的な対応が示されていない炊き出しについて、実践を通して学ぶことができ、大変勉強になりました。ポリ袋で広がる調理の幅に、災害時も食材を工夫しながら楽しく栄養を摂ることができると可能性を感じました。

参加者の感想

大変学びの多いセミナーでした。避難所生活での注意点など、なんとなくわかっているつもりになっていたことを具体的に知ることができたので、避難所生活をよりリアルにイメージできるようになりました。湯煎調理ができる袋とできない袋があること、できる袋は場所によって入手困難なことを知りました。細かく切った玉ねぎとにんじん、ひき肉、カレールーだけのキーマカレーを作りましたが、美味しかったです。

「支援はすぐには来ない。備蓄を」「酢で殺菌」「折りたたみベッドの用意」等、大変になりました。参加者の皆さんのお話も、専門的な方・子育て中の方等、色々な意見が聞けてとても良かったです。自分のことと言えば、要支援・要介護の両親のオムツや薬や飲料水、清拭用シートなどなど、改めて考えておかなければならないなぁと感じました。

湯煎調理がうまくいくのか確認するため、OIHではセミナー前に、実際にポリ袋を使って肉じゃがを湯煎し、おいしくいただくことができました。しかし、当日は意図せず袋の中の空気が多かったのか、袋が破けてしまうハプニングもありました。手軽に防災飯について学び実践することができるセミナーとして、今後も取り入れていきたいと思えます。

日本語教室 受講者インタビュー

- ① いつ日本に来ましたか。
- ② いつから日本語を勉強していますか。
- ③ どうして日本語を勉強していますか。
- ④ OIHF での日本語の勉強はどうか。
- ⑤ 日本語が上手になったら、何がしたいですか。



基礎対面クラス

SHEN JIAQI さん
(出身地：中国／上海)



- ① 2022年8月4日
- ② 3年前
- ③ 仕事と生活で必要だからです。
- ④ テーマのある会話練習をたくさんしたいです。
- ⑤ 日本人の友達を作りたいです。



基礎対面クラス

クイニー さん
(出身地：香港)



- ① 2年前
- ② 2年前
- ③ 生活と仕事で必要です。
- ④ 役に立ちます。ここで新しい友達が作れました。
- ⑤ 日本人と話したいです。



基礎対面クラス

ウィンキー さん
(出身地：香港)



- ① 2年前に日本に来ました。
- ② 昔から
- ③ 日本を旅したいので。
- ④ 友達ができただのいいです。
- ⑤ 仕事をしたいです。

国際理解・国際協力のための中学生作文コンテストで

沖縄県立開邦中学校2年 島袋 莉安さんが

佳作を受賞

(公財)日本国際連合協会主催による「第63回国際理解・国際協力」のための全国中学生作文コンテストにおいて、「本年はSDGSの中間年。2030年までに17の国際目標から成るSDGSを全て達成するために、日本ができることは何か。」をテーマとした作文で、沖縄県代表の開邦中学校2年生の島袋 莉安 さんが「佳作」を受賞しました！全国から2,255の応募作品の中から選ばれた快挙です。おめでとうございます！



イベント情報

多くの皆様のご参加をお待ちしております

2023年度 災害危機管理 セミナー

2024.1.20(土) 10:00~12:00 (受付開始/9:45~)

沖縄県市町村自治会館 (沖縄県那覇市旭町116-37)

参加料 無料 (参加定員 40名程度)

【講師】 竹内 直人 氏
NPO法人国際防災交流・人材育成財団(公財)代表理事
東京大学法学部卒業、国際法に専門的知識、パートタイム大学教授(人事院評定)後、中央・地方の防災関係で専攻。現在は公益財団法人国際防災交流・人材育成財団として国際的な研修、海外大学校長で退任後、貴財団の設立と共に大震災の被害防止に活動中。NPO法人を設立。

【募集期間】2023年11月1日(水)~12月28日(木) 10:00~15:00 (申し込み締め切り)

【参加・観覧料】 参加者 無料 (公財)国際防災交流・人材育成財団の活動費 全額 無料

【申し込み】 詳細は下記のとおりです。申し込みは下記のとおりです。申し込みは下記のとおりです。

【お問い合わせ先】 (公財)国際防災交流・人材育成財団(OIHF) 総務課 事務局 (受付)

〒901-2221 宜野湾市伊弉4丁目2番18号 TEL: (098)942-9215 E-mail: kokusai@oihf.or.jp HP: https://kokusai.or.jp

島嶼県沖縄の地域防災力の向上！ 「災害危機管理セミナー」参加者募集

募集期間 ~ 2023年12月28日(木)

実施日時 2024年1月20日(土) 10:00~12:00(受付開始 9:45~)

場所 沖縄県市町村自治会館(沖縄県那覇市旭町 116-37)

対象 行政職員や沖縄県地域防災計画関係者をはじめ、島嶼県沖縄の地域防災力向上に興味を持つ方等、どなたでも参加することができます。

定員 40名程度

参加方法 オンラインフォームからご応募下さい。参加は応募先着順とし、定員に達した時点で募集を締切ります。

「第41回外国人による日本語弁論大会」弁士募集

募集期間 ~ 2024年1月10日(水)

実施日時 2024年2月10日(土)

場所 パレット市民劇場(那覇市久茂地1-1-1 パレットくもじ9F)

出場者 12名以内とし、主催者において審査委員会を設け書類審査を行い、本大会出場者を決定する。

応募方法 オンラインフォームからご応募ください。

第41回 外国人による日本語弁論大会

Call for Speakers: The 41th Japanese Speech Contest for Foreigners

弁士募集

募集期間 2023年 10月3日(火)~2024年 1月10日(水) 17時まで

開催日時 2024年 2月10日(土) 13時~16時

参加資格など詳細は HPをチェック

場所 パレット市民劇場 (那覇市久茂地1-1-1 パレットくもじ9F)

https://kokusai.oihf.or.jp

問い合わせ先 (公財) 沖縄県国際交流・人材育成財団(OIHF)
〒901-2221 宜野湾市伊弉4丁目2番18号 TEL: (098)942-9215
E-mail: kokusai@oihf.or.jp HP: https://kokusai.oihf.or.jp

OIHF法人賛助会員様

					
					
		沖縄県商工会 連合会	パシフィックホテル 沖縄	株式会社DUO	

(順不同)